



# 博物館学芸員実習の キュレーション演習授業への ジャパンサーチ活用事例

齊藤 有里加（東京農工大学科学博物館 特任助教）

堀井 洋（合同会社AMANE 代表社員）

# 東京農工大学科学博物館と学術資料

- 工学部の中にある「蚕糸学術コレクション」  
誰も工学部に「蚕」の「浮世絵」コレクションがあると思わない！



教育・研究機関が内包する「学術資料」は、組織統合などの変遷により資料が埋没化しやすく、単独での資料公開には発信に限界がある。



# 2020年10月ジャパンサーチへの連携開始



回転 0 ▾

画面にフィット

全画面

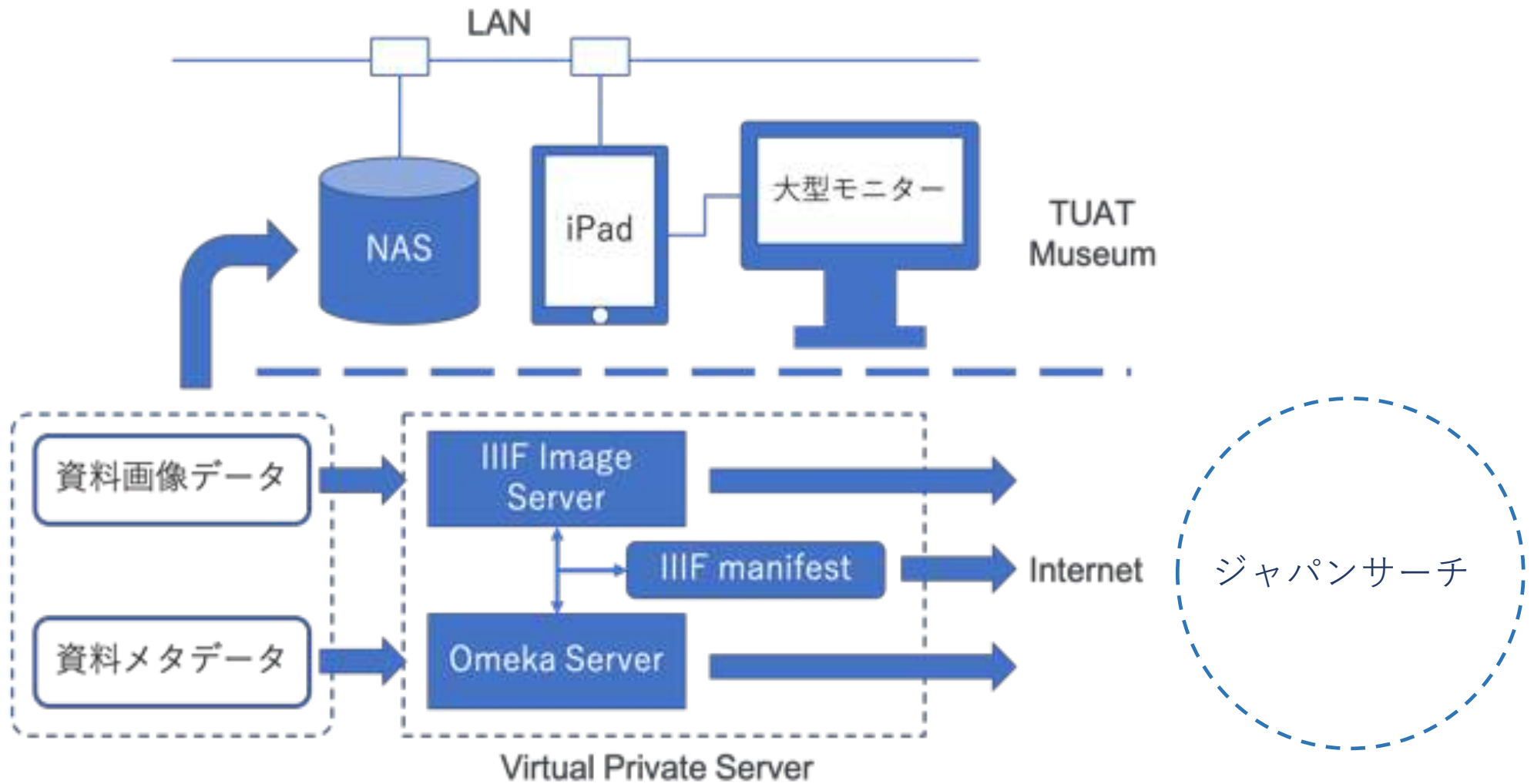
CC BY-NC-SA (表示-非営利-継承)

東京農工大学科学博物館デジタルアーカイブ蚕糸学術コレクション

## 蚕織錦絵コレクション

[収録元データベースで開く](#)

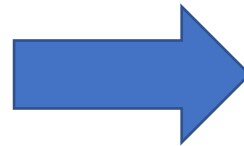
故鈴木三郎名誉教授寄贈、博物館所蔵から成る400点余りの錦絵資料。蚕織錦絵は主に蚕の孵化、採桑から製糸、製織、布選びに至る一連を含んでいる組絵や多くの工程を1枚にまとめたものを指しますが、ここでは各作業が単体で制作されたものも含んでいます。蚕織錦絵の原点は楼璩(ろうちゅう)が南宋の皇帝高宗に献上した「耕篇21景」及び「織篇24景」からなる「耕織図」にあります。これを基に橋守国が描いた「絵本直指宝(ねざしたから)」が制作され、多色刷りの勝川春草と北尾重政による12枚一組の「かみこやしなひ草」、喜多川歌麿による「女織蚕手業草」へと連なります。さらにこのモチーフは多くの絵師によって明治期まで用いられることで、様々な錦絵の様式を内包し時代ごとに変化に富んだ作品が見られるのが特徴です。「蚕織錦絵」という用語は製糸学を専門としながら、学生時代より錦絵の収集を続けてきた故鈴木三郎名誉教授によるものです。私家版「絵で見る製糸技法の



# システム構成

# COVID-19を背景とする実習授業のオンライン転換

~~対面での教育普及イベント  
複数での資料整理作業~~



これまでの実習でできなかった資料データの活用、デジタルの取り扱いへの着手を試みた

# ジャパンサーチ「ワーク機能」を使った学芸員実習を実施

- 授業目的：「ワーク機能」による展示の擬似体験  
デジタルアーカイブの特性の理解
- 授業期間：2020年10月～11月のうち2日間

ジャパンサーチ解説と操作説明

「ワーク機能」によるギャラリー作成とオンライン発表

※2日間の間には各自のテーマを探し、アカウント接続と操作体験をする課題を出した

- 農学部学生・工学部学生 9名
- 担当教員 齊藤有里加<sup>1</sup> 堀井洋<sup>2</sup> 堀井美里<sup>2</sup>
- ゲスト講師 小川歩美<sup>2</sup>

1) 東京農工大学 2) 合同会社AMANE

# デジタル展示構築の流れ

## I. ジャパンサーチの理解

背景・概要の理解

他機関・既存ギャラリー事例の把握

検索・ワークスペースを中心とした機能・操作の習熟

実施

未実施

## II. ギャラリーの作成

展示企画・コンセプト立案

展示対象資料の選定

解説・キャプション作成

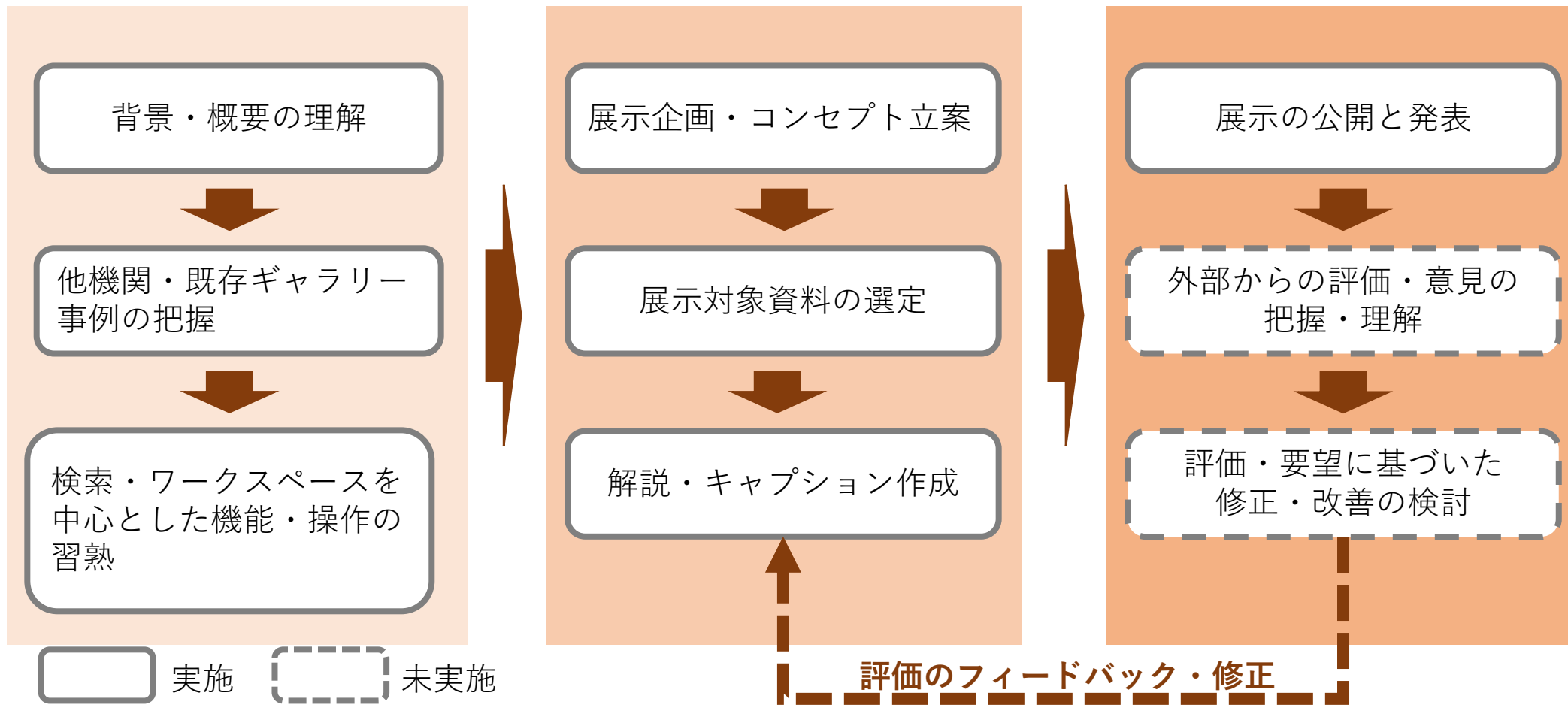
評価のフィードバック・修正

## III. 公開と評価

展示の公開と発表

外部からの評価・意見の把握・理解

評価・要望に基づいた修正・改善の検討



# “サンプルギャラリー”による機能説明

JAPAN SEARCH

検索キーワードを入力



TUATMUSEUM@東京農工大学科学博物館

最初のノート

トップ ▶ ワークスペース ▶ 東京農工大学博物館実習2020 ▶ テスト\_機能説明



美人養蚕ノ図 3枚綴 / 東京農工大学科学博物館

# 受講者制作ギャラリー



## 日本人と雪

このギャラリーでは、「日本人と雪」に関連する作品を紹介します。



## Iwataniのギャラリー:錦絵で見る明治の建築

現代になっても目を引く美しい明治の擬洋風建築を錦絵で紹介합니다。



## のギャラリー:日本人とキツネ

日本の文化におけるキツネの姿



## 伊豆

伊豆に関するコンテンツ(絵画、写真、地図、動画)を紹介します。



## のギャラリー

絵画に登場する日本の野鳥



## のギャラリー:根付

根付とは、江戸時代に、印籠などを腰から下げる際に、紐の端に取り付け、帯にくぐらせて外に出すことで滑り止めにするハシ形ノの細工物のことデス。木や象牙、角、金



## ギャラリー:蚕だらけ

農工大資料の代名詞ともいえる蚕。彼らが登場する日本の歴史資料を紹介します。



## 日本の妖怪コレクション

日本の妖怪にまつわる作品を集めました。

妖怪



## 日本人と化粧

日本人と化粧の関わりを紹介します。





花鳥図 / 東京国立博物館

## 佐藤のギャラリー

絵画に登場する日本の野鳥

自然物





# ワークスペース機能を使用した良い点

- ・豊富な編集機能を用いて自習度の高いギャラリーを製作できる
- ・博物館における実際の展示設計にも応用可能なテーマ設定やシナリオ作成を実践することができた。
- ・国内の膨大な量のデジタルアーカイブを検索できる点が良かった
- ・理系の学生である私たちが普段の関わりの薄い美術品が多かったのが新鮮だった
- ・資料を探す過程で普段見る機会のない仕様も色々見ることもできた。
- ・資料借用の複雑な過程がなく、気になったデータをまとめる手軽さが良い。
- ・一つの企画展の構成を考えているような感覚でいかにストーリー性を持たせて資料を組み合わせるかという部分を考えた。

# ワークスペース機能を使用した際の改善点

- ・ 製作者の個性が反映されるため楽しく実習できた一方、発信者としての責任も感じた。
- ・ 調べたい内容に対して、どのようなワードで検索するかはかなり重要。コツの表記があったら。
- ・ 求める情報にたどり着くまでが困難。これから利便性が高くなると良い
- ・ ジャパンサーチと連携していない機関の資料を使用したかった場合が多々あった。

# ワークスペース機能に対する感想・意見

- データベース上の資料間に新たなつながりを見せる点に意義がある
- 空間的な制約なしに並べることができるのがデジタルアーカイブの長所
- 一般の人でも利用できるようになったら楽しい
- 現在実施中の企画展作品の一部をギャラリーで展示すればどうか特に小さな博物館に有効
- 他分野の議論を加速する存在

# 担当者から見る、ジャパンサーチの使い勝手

- ・引用がすぐに拾えて助かる
- ・自館資料の検索・閲覧機能が強化されていたら積極的に資料を掲載するモチベーションになる。
- ・外国語機能の強化があったら嬉しい
- ・ジャパンサーチへの紐付けの簡易化
- ・ワーク機能は他の人とのディスカッションに有効。声をかけるためにも、わかりやすい操作説明が欲しい

# ジャパンサーチを活用した今後の展望

- ワーク機能を活用したオンライン展示実習の強化
- 掲載資料の強化
- 閲覧件数のモニタリング
- ワーク機能を使った他館とのコミュニケーションツールとしての活用